



小林市立
幸ヶ丘小

こすもす

学校だより
令和2年度第6号

R2. 7. 29発行

ホームページ=<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/1410/htdocs/>

文責：阿南 栄三

大暑も過ぎて、本格的に暑くなりました。夏になりました。今月上旬には九州地方を豪雨が襲い、熊本県を中心に多くの尊い命が奪われるなど、甚大な被害を受けました。その後も雨が降り続いたため、復旧も思うように進んでいません。被災された方の心情を思うと心が痛みます。一刻も早くもとの生活にもどることができるように祈ります。

さて、新年度がスタートして、これまで新型コロナウイルスの影響で、臨時休校になったり、新しい生活様式が示されたりして以前とは違う生活になりました。そんな中でも子どもたちは元気に登校し、学習に取り組んできました。子どもたちの様々な場面での姿に、一人一人の成長を感じています。保護者、地域の皆様にもたくさんご協力いただきました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

明日から夏休みが始まります。この期間は家庭や地域で過ごすこととなります。新型コロナウイルス感染防止のため、何かと制限されることがあるかとは思いますが、夏休みでないとできないことに取り組んで欲しいと思います。授業再開は8月25日（火）です。

自分の目標は達成できたか？「目標」と「目的」とはどう違う？

夏休み前の集会で話した内容です。新年度のスタートに「3つのお願い（目標をもつ、自分で考える、人に優しく）」をしました。子どもたちはそれぞれ学習面、生活面で目標を立てて、頑張ってきたと思います。自分の目標が達成できたかどうかの確認をしました。

「目標」と同じような言葉に「目的」があります。では、「目標」と「目的」はどのように違うのでしょうか？



「目標」=〇〇に向かって（具体的） 「目的」=〇〇のために（具体的でない）

目標をもつことはとても大事なことです。目標だけで目的がなかったらいろいろな困難にぶつかったとき、あきらめてしまうかもしれません。しかし、目的をもっていたら、それが力になることがあります。例えば・・・

「算数のテストで100点をとる」ことを「目標」に立て、勉強を頑張ってきたけれど、途中で、家の手伝いや友だちとの遊び、ゲームなどで、だんだん勉強する気持ちがなくなり、「もういっか〜」となることがあります。しかし、目標と同時に「お父さん、お母さんを喜ばせたいために（算数のテストで100点をとる）」を「目的」にしていたら、親の喜ぶ顔が浮かんできて、頑張って勉強を続けることができるのです。

人って、「誰かのために頑張れる」ということがよくあります。皆さんもそんな経験をしたことがあるのではないのでしょうか？

8月の主な行事予定 【夏休み:7月30日(木)~8/24日(月)】

- 3日(月): 登校日 放課後子ども教室(木工教室) 家庭教育学級(手話講座)
10日: 山の日、12日~14日: 学校閉庁 23日(日): PTA奉仕作業
25日(火): 1学期後半開始、全校朝会 団決定 26日(水): ALT来校
27日(木): 運動会練習 28日(金): 結団式
31日(月): 読み聞かせ、運動会練習

叱り方上手のステキなお母さん(親)に!

夏休みはお子さんを家庭にお返りする期間です。お子さんと接する時間がぐ~んと増え、生活面や学習面で普段は見えなかったところがたくさん見えてきます。そのとき、保護者のみなさんはどのように接し、言葉をかけますか?

「効果のない叱り方」を3つ紹介しますので、参考にしていただけましたら幸いです。

① 親御さんが、救済者から迫害者にそして悲劇のヒロイン役を演じるケース

どの親御さんもお子さんの幸せを願います。特に勉強については、なんとかしようとして手を差し伸べ、成績に一喜一憂し、下がると塾に通わせたりします。**(救済者になる。)**ところが、成果が出ないとどうなるか。「努力しないのだから。もう知らない。勝手にしなさい。このままだったら高校にも行けない」と**迫害者に転じます。**さらには「どうして私はこんないやな思いをしなければならないの。この子のためにこんなにつらい思いをしている。この子のために一生苦労しなければならない」と愚痴を言い、**悲劇のヒロインになる。**



② 知らずにあら探し・つるし上げに陥ってしまうケース

うまくできていることがあるのに、うまくできていないところを見つけてごちゃごちゃ言う。たとえば「部屋の片づけをしなさい」と言って、子どもが一生懸命片づけているのに、それを見にいって「まだ、ここができていない、こうしなさい」と、**新たなあら探しをしてしまう。**



③ 子どもの努力を値下げ・割引いて見てしまうケース

自分の子どもの頃をすっかり忘れて、**できないところを強く見てしまい、できているところまで否定してしまう叱り方**です。テストで、たとえば80点なんてすばらしい点数ですから、「本当に良くできたね」と言ってあげればいいのですが、つい値引きするお母さんは、できなかった20点が気になるわけです。×がついているところを見て、「こんな簡単などころを間違えて」とか「同じところを間違えて」と、プラス面があるのに、なじるような感じで言ってしまいます。しかし“なじり”と“叱る”はまったく違います。**なじりは、子どもの心を傷つけてしまいます。**

褒め、叱ることは本当に難しいものです。私たち教師はそれを実感し、悩んでいます。その中であえてお願いしたいのです。この夏休み、大事な子どもさんのために、これまで以上に叱り方上手のステキなお母さん(親)を目指してください。



※ 子どもたちの様子を紹介するスペースがなくなりました。すみません。m(_ _)m

【幸っ子の様子】については [ホームページ](#) をご覧ください。